

令和6年度 第2回稲毛区区民対話会「防犯士の活動について」議事要旨

1 日 時 令和7年2月27日（木） 14:00～16:00

2 場 所 穴川コミュニティセンター3階 会議室

3 出席者 区民参加者 防犯士13名（1期生 7名、2期生 6名）
稲毛区：区長、副区長、地域づくり支援課長、他3名

4 議事要旨 ※以下、防犯士1期生を防犯士①、防犯士2期生を防犯士②とする。

1 活動の内容や工夫したことについて

①現在、取り組んでいる内容を教えていただきたい。

（防犯士②F）

②日々の活動の中で、防犯士として具体的にどのような活動をされているのか。

（防犯士②A）

防犯士①E：天台圏域の各町内自治会の防犯パトロールに参加し、防犯士と一緒に地域を回っている。

町内自治会や老人クラブ、通いの場については、最新の犯罪状況を消費生活センターから収集し、防犯士としての一言を添えて、プリントアウトしたものを配布している。

防犯士①G：夏季冬季で2日間ずつ、理事会の後に防犯パトロールを実施しており、地域として防犯のこころを持っている。

現在、防犯士が中心となった防犯パトロールを検討中である。

防犯士①A：月に1度、第3木曜日の夜6時からパトロールを実施している。

参加者は、防犯・防災部のメンバー（10名ほど）と役員で、2班に分かれて実施している。
ごみステーションや街灯を確認しつつ、地域を回っている。

③取り組んで上手にできなかった事例を教えていただきたい。

（防犯士②F）

防 犯 士：事例なし。

区 長：昨年度受講し、様々な工夫をして活動していただいていると思うが、効果検証まではできていない状況と推測する。

④防犯パトロールの活動やペースで工夫していることはあるか。

（防犯士②B）

防犯士②B：「なかなか続かない」「活動のペースを減らすと防犯への効果が薄くなるのではないか」という意見があるが、実際に活動されている皆様に頻度や工夫を教えていただきたい。

防犯士①F：大人数で実施するのは、夏場で月に4回ほどである。

講座の中で、不定期に実施することが効果的と教えていただいたため、月2回、町内自治会館に移動交番が来てくれるが、ポッチャなどの楽しみを取り入れ、大勢が集まるように工夫している。

課 長：防犯パトロールのルートは毎回決まっているのか。

防犯士①A：決まっている。２班体制で小一時間ほど実施している。

防犯士①F：役員や理事等で町内を２つに分けて実施している。

防犯士②C：同じコースを同じ時間で実施している。稀に、路地に入ったり、順路を変更する場合もある。
危険な箇所を講座で学んだため、チェックしながら実施している。

課 長：中央図書館で作成しているオーラルヒストリーについて、今年度は宮園自治会の会長が取り上げられており、防犯に関する話があった。

内容としては「犯罪者は顔を見られるのを嫌うため、コースを決めずに、パトロール隊がいきなり路地から現れる状態になるよう工夫していた」というものである。

区 長：昨年度、（防犯パトロールの）ポイントリストを作成し、防犯パトロール隊に配ったが、活用された事例、修正点等はあるのか。

防犯士①G：いただいた覚えがない。

課 長：全防犯パトロール隊に送付したが、今年度はまだ送付できていない。

防犯士②B：ポイントリストを活用したが、内容がしっかりしており、全てを実施すると時間を要する。
回数を重ねればスムーズに活用できるようになるかと思う。

防犯士②F：防犯パトロール隊がない地域もあるため、町内自治会にも送ってほしい。

⑤移り変わる犯罪情勢にどうやって向き合ってきたのか。

（防犯士②G）

区 長：ニュースでも様々な犯罪を目にするが、それらの犯罪に応じて取り組んでいることや、講座で学んだこと以外でも、実践していることがあれば教えていただきたい。

防犯士①E：消費生活センターから送信される注意喚起のメールをプリントアウトして、町内自治会や通いの場で配布している。

また、通いの場や体操教室の参加者（高齢者）にはスマートフォンの使用方法を教えるとともに、活用を勧めている。千葉市のラインや安心安全メールを受信していただき、定期的に確認いただくよう案内している。

防犯士①D：安心安全メールに登録したことで、最新の情報収集に役立っている。

収集した情報はサロンで共有している。

先日、体操教室で防犯の話をした際に、実際に１００万円の詐欺被害にあった方がいた。

防犯の情報をフィードバックすることで、新しい情報が入ってくることもある。

区 長：警察の協議会に出席しているが、被害にあった申し出がないと件数には反映されず、正確な数字が反映されないと聞いた。

防犯士②F：スマートフォンの使い方講座の参加者の年齢は。

防犯士①E：９０歳の方から相談を受けた。

ＱＲコードから登録が出来るため簡単にできる。

参加者の年齢層は平均すると８０代前半の方が多い。

防犯士①G：あんしんケアセンター山王でも実施可能か。

防犯士①D：センターとして実施しているわけではなく、相談のあったタイミングで調整して実施している。

講座で学んだことを共有する方法としてサロンや体操教室を利用している。その際に、防犯に関する内容を一言（防犯講座の案内や犯罪情報）添えている。

防犯士①G：山王町西だよりを毎月発行している。

防犯士となってから、防犯一口メモを①～⑩まで掲載している。

山王交番からの便りに最新の犯罪情報も掲載されているため、確認するよう案内している。

防犯士①F：全世帯に行き届くよう、400部ほど用意している。

2 学んだことが役立った事例や学んだことを応用した事例について

⑥学んだことの実践事例を教えてください。

また、なぜそれに取り組んだのかについても教えてください。

(防犯士②F)

防犯士①B：講座で学んだことを地域に共有しているが、その他の取り組みは実施できていない状況である。

防犯士①C：防犯士②Fの考えを教えてください。

防犯士②F：600世帯弱の地域であり、防犯活動は個々に実施していた。

民生委員としての活動として、先生の本の内容を参考にし、「すぐできる防犯」としてフィードバックしている。

地域でのコミュニケーションが課題と感じている。

防犯士①G：講座で「挨拶をすること」「施錠をすること」でかなりの犯罪を防げると教わった。

誰でもできることであり、地域で展開している。

⑦講座で学んだことを市民の方々に伝える場合にどのような方法で伝えているのか。

また、その時に工夫している点があれば教えてください。

(防犯士②A)

防犯士②A：地域に講座で学んだことを共有する場面もあるが、なかなか危機感を持ってもらえない。

区 長：自分事として捉えてもらうことが重要である。

防犯士①A：先生の本を10冊ほど購入し、各ブロック長に回覧してもらった。

区 長：防犯士②Aが「自分事として考えてくれていない」と感じるのはどのような時か。

防犯士②A：その場では危機感を持ったリアクションをしてくれても、後日、伝えたことを実践したか確認すると、何もしてくれていない。

防犯士①B：自分の町内で起こった事例が一番効果的であると思う。

稲毛区内ではなく、もっと身近な事例を伝えるようにしている。

防犯士①D：稲毛区では一時期、園生町が最も自転車盗難が発生していたと学んだ。

そのため、地域にその情報を多く共有するようにした。

防犯士②E：交通安全として児童の見回りを実施している。

移動交番を含め、参加するメンバーが固定化しており、いかに増やしていくのが課題である。

講座で防犯グッズを紹介してもらったが、地域にもその情報を共有したいと考えている。

⑧日常の中で防犯士としての目が活きた瞬間があれば教えていただきたい。

（防犯士②G）

担 当：講座で学んだことが実際に役立ったり、実践出来た事例を教えていただきたい。

防犯士②F：講座で学んだ情報（不審車両の判断基準）を地域に共有し、少しでも当てはまっていたら連絡をするように伝えている。

防犯士②D：「知らない人にも挨拶をする」「空き家を照らす」「燃えやすいものを置いてないかの確認」等、講座で学んだことを実践している。

ただ、付き合いのない世帯には注意しづらい。

講座で学んだことを地域にどのように周知していくのが今後の課題である。

防犯士①E：町内自治会のパトロールに同行する際、3人1組で通行人の違うところ（顔、服装、靴）を見るようにしている。

また、講座で道路と敷地の境界線を明確にするよう学んだため、地域で周知したところ、実際にロープやチェーンを取り付けた家もあった。

防犯士②B：梅と桜の防犯チャンネル（YouTube）を視聴し、活用している方もいる。

直接伝えていくことも大事だが、SNSを通じた発信もいいと思う。

防犯士①F：知っている人に声をかけることは当たり前のことで、むしろ知らない人にこそ声をかけなければならないと伝えている。

ただ、暗い時間の声掛けは難しく、女性から声掛けするのは難しいとの声も聞いている。

3 防犯活動における課題について

⑨<<防犯パトロール隊への質問>>

実際のパトロール活動において地域との関わりと問題点を教えていただきたい。

（防犯士②F）

⑩若い人が参加できている防犯活動があれば教えていただきたい。

（防犯士②B）

防犯士①G：ご高齢の方がパトロールに参加しているが、怪我をする心配がある。

活動はしていかなければならないが、対応を検討しなければならない。

防犯士①A：保険に加入している。パトロールの実施計画を出し、傷害保険に加入している。

防犯士①G：行事全体で参加者に対しての傷害保険に加入しているが、安価のものである。

防犯はリスクが高いため、防犯活動に係る保険では、価格が高くなってしまう。

区 長：パトロール活動にはリスクも伴う。行政と地域で考えていくべき問題であるため、考えを聞かせてほしい。

防犯士①G：青パトは車両保険に加入しておらず、対人対物の範囲のみである。

そのため、保険の範囲の見直しを考えていただきたい。

防犯士①A：防犯カメラの設置費及び維持費を市で負担してもらいたい。

課 長：防犯パトロールはボランティア活動補償制度の対象となる。

組織として計画的に実施するパトロールが対象であり、個人で行う防犯ウォーキングは対象外である。

防犯士②C：町内自治会の総会でパトロール隊への参加を呼び掛けているが、なかなか増えず、隊員も高

齢化している。

他の地区でどのように対応しているのかを聞きたい。

防犯士①A：穴川町会では10ブロックに分かれており、各ブロックで防犯担当などを任命している。

パトロールに参加できないブロックがあっても、代わりに参加してくれる方もいる。

防犯士①F：千葉北警察署の剣道教室に通っている子どもや千葉大学在籍の警察志望している学生も参加してくれたことがある。

子どもたちは友達同士で大きな声を出して競い合う。

役員ではなく、若い人こそ参加すべきである。

区 長：令和5年度の対話会でも、当時、千葉大生であった学生から「小さいころにパトロールに参加したが、大人になっても思い出として残り、参加に対して前向きになる」とのお話があった。

防犯士①F：千葉北警察署の生活安全課に相談し、地域のパトロール活動への参加を呼び掛けると良い。

防犯士①E：千葉北警察署の生活安全課が半年間で2度、パトロールに参加してくれた。

また、防犯のカギを配布してくれたり、認知症SOS訓練にも参加していただいている。

警察と密に情報交換することが大事である。

⑪防犯について市民の方々に伝えるにあたり、ただ話すだけではなかなか危機感を持ってもらえないことがあるように感じる。

（防犯士②A）

防犯士②A：⑦でお答えいただいたとおり。

⑫個人や小さな集団で防犯活動を行っていくコツや周囲に防犯の目を伝染させるための策があれば教えていただきたい。

（防犯士②G）

防犯士①F：新しく理事を務める方に稲毛区の防犯帽子を渡している。

犯罪者も近寄りがたくなる。

防犯士①A：防犯帽子は毎年もらえるのか。

課 長：申請していただければ再交付・交換も可能である。

防犯士①D：私の居住地域では、防犯帽子を被って散歩する方や、自転車の買い物かごに「パトロール」と貼っている主婦の方もいた。

4 他団体との連携について

⑬《あんしんケアセンターへの質問》

民生委員に対して、高齢者への対応で心掛けることや、注意することがあれば教えていただきたい。

（防犯士②F）

防犯士②A：訪問した際に「以前と比べて散らかっている」「生活に不便を感じている」「コミュニケーションが取りづらい」ような状態であれば教えていただきたい。

防犯士①E：民生委員の方に犯罪状況を紙ベースで周知する際に、「独居になった」など、地域の情報をいただいている。

萩台町で小学生が刃物を持った男性に追いかけられたことがあり、連絡を受けてパトロールをした。

町内自治会や移動交番や民生委員と回ったが、民生委員に対しての事前の情報提供がなかった。

千葉市のLINEやメールなど、情報収集の方法を周知している。

防犯士②F：子供の見守りについて、学校との関わりが少なく、情報も入ってこない。

民生委員として町内自治会と学校の関わりをつくりたい。

⑭他団体と連携された事例があれば具体的に教えていただきたい。

（防犯士②A）

防犯士①E：町内自治会や民生委員など地域の方々とコミュニケーションを取るようにしている。

各町内自治会の熱量のギャップをいかに埋めるかが課題である。

防犯士①B：あんしんケアセンター主催の講座にALSOKに来てもらい、ホームセキュリティの啓発をもらった。

防犯士①F：町内自治会の区域にイスラムのモスクがある。

防犯パトロールを一緒に実施していた。

イスラム圏域に帰国し、自分たちの防犯パトロール隊を結成し、活動してくれている。

⑮住宅街の見回りや登下校時間帯の見守りなど、犯罪者をつくらないまち全体の取り組みをするにあたって、連携すべき団体はあるか。

個人ではできることは限られてしまうのではと思い、なかなか行動に移せない。

（防犯士②G）

防 犯 士：特になし

5 その他（区民対話会で話し合いたいこと）

⑯先生に各団体から相談したことや受けた助言を共有できる方法を考えたい。

（防犯士②B）

防犯士②B：活動内容や先生方に質問したことを防犯士全員で共有できる仕組み、またそれに係る行政の制度を確認できるような仕組みを考えたい。

区 長：検討する。

区 長：事前にいただいた質問事項については以上となるが、他に共有したいことなどはあるか。

防犯士②E：防犯グッズを紹介してほしい。

具体的な対策をできるものを地域で広めていきたい。

区 長：講座で音、光、時間の3項目の話があった。

防犯士①A：ホームセンターに様々な種類のモノがある。

防犯士①F：防犯ブザーは現在も小さい子どもは使っているのか。

防犯士②A：小学1年生の時に貸与されると思う。

区 長：稲毛区が住みよいまちになるよう皆様の力を借りながら一生懸命に取り組んでいきたい。